



獣害を克服して特産品づくり！ ～香美町小代区野間谷集落の取り組み～



地区の概要

全戸数	17戸
農作業従事戸数(家庭菜園含む)	ほぼ全戸
専業農家	0戸
農地面積	4ha(畑作1ha)
生産目的	ほぼ自家用
集落営農	無
生産組合	有(サンショウ)



香美町小代区に位置する野間谷区。氷ノ山の豊かな自然に囲まれた小規模な集落。付近にはサルやクマ、イノシシが生息しており、被害にあいやすい環境ながら、熱心に被害対策に取り組んでいる。

これまでの対策

2000年頃

柿の木の伐採

役員らの呼びかけにより、個人個人で不要な柿の木を伐採したり、トタン巻などの対策に取り組む。

防護柵の設置

イノシシ用電気柵を個人個人が水田に設置。

集落での捕獲

区長が狩猟免許取得。

追い払い体制

区内に有害鳥獣対策係3名を設置

2009年

林縁環境の整備

集落ぐるみの被害対策モデル事業(但馬県民局)や国の補助事業を活用。

獣害レンジャー活用

ボランティアを活用して下草刈り。

ここに注目！

柿の木対策

野間谷は昔から柿の木が多く、クマがよく出ていたが、10年以上前から柿や栗の伐採を集落として区民に働きかける。個人個人で伐採が進み、5-6年前くらいまで**伐採できるものはほとんど、合計80本くらいを伐採。最近ではクマの出没はほとんどなくなった。**

電気柵

水田まわりには個人個人で電気柵を設置。設置した箇所ではイノシシによく効いている。

捕獲

区長が狩猟免許取得 銃猟(H19)ワナ(H20) 集落で囲いわな3基、個人で箱わな1基所有

実績 H20 イノシシコドモばかり5頭
↓ 捕獲技術を学び・・・
H22 **イノシシ14頭捕獲**

環境整備

サルの隠れ場や泊まり場となっていた林縁環境を整備。「サルの反応が変わった」 獣害レンジャー(ボランティア)を活用して下草刈りも。



追い払い

町のサル放送に加え、区長自らが受信機を活用してパトロール。接近時は男性を中心に複数人で電動ガンを使って追い払う。**区長の帽子を見るだけでサルが逃げるまでに。**

集落内体制

高齢化で個人では対応が困難な人も多いため、野間谷では集落として、サル対策の追い払いや捕獲檻の点検をする**有害鳥獣対策係を3名設置しています。**

成果と今後 - 区長さんへのインタビューより -

いろんな手を尽くして効果が出ている。今のところは、今の被害状況が進めば、この村ではある程度はやっていけそう。



アサクラザンショウの特産化にむけて

野間谷は朝倉姓が多い(約半分が朝倉さん)こともあり、アサクラザンショウの特産化を目指している。普及センターから指導を受け勉強会などをして楽しみながら取り組んでいる。区内の6名でサンショウ組合をつかって、苗を50本購入しようかというところまで来た。今後はシカの被害が心配されるので、対策はきちんとしないと。

センター講評

山間部の集落で、獣害にあいやすい不利な条件ながら、区長さんがリーダーシップを発揮し、さまざまな対策を実践して、被害軽減に成功しています。また、高齢でなかなか個人ではできない対策を集落としてサポートする野間谷集落の体制づくりは、同じような課題を抱える他の集落にとっても参考となるでしょう。獣害を軽減して、今後は、集落にちなんだ特産品づくりに、楽しみながら挑もうとする姿勢にも注目です。新たな目標設定のもと、今後も獣害に負けない元気な集落づくりに期待しています。

